

## 令和4年度 第5回東大和市まち・ひと・しごと創生会議 書面会議要録

会議名	第5回東大和市まち・ひと・しごと創生会議
開催日時	令和5年3月20日(月)～3月30日(木)(書面会議による開催)
開催場所	書面会議
意見書提出者	(委員) 牧瀬委員(座長)、小島委員(副座長)、目黒委員、左近委員、黒岩委員、市川委員、高橋委員、米澤委員、岩田委員、堀江委員、稲葉委員、野村委員、前村委員
会議の公開・非公開	書面会議
会議内容	(1) 東大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗状況(令和3年度)の訂正等について(意見聴取) (2) 東大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗状況(令和2年度)の取扱いについて(意見聴取) (3) 第2期東大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略アクションプランの修正について(意見聴取)

### 主な意見

#### (1) 東大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗状況(令和3年度)の訂正等について(意見聴取)

- ① 東大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗状況(令和3年度)(修正案)の婚姻件数と「振り返り」の説明を訂正することについて

委員：

誤りのあった数値を訂正するとともに、その数値に基づく意見等を差し替えることに異論はない。ただ、既に公表したものを差し替えるので、訂正の理由、お詫びを記載する必要があると思う。

座長：

意見等はないが、次回以降の創生会議では、同じことを繰り返さないように、私も注意する。

- ② 東大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗状況(令和3年度)(修正案)の施策1「結婚の力になる」の施策に対して、外部有識者意見欄に記載する意見等について

委員：

基本目標1については、コロナ禍にあって全体的に良く推進していると評価する。結婚、そして、出産、子育て、教育の一貫した施策が「日本一子育てしやすいまち」の実現には不可欠である。

#### (2) 東大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗状況(令和2年度)の取扱いについて(意見聴取)

東大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗状況(令和2年度)の内容は、現状のままとして、お詫びと訂正の文書を市公式ホームページで公表することについて

意見等なし

(3) 第2期東大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略アクションプランの修正について（意見聴取）

第2期東大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略アクションプラン18ページ抜粋の「婚姻件数については、増加しており、婚姻件数が増加すれば子育てにつながり、子育てから定住につながることを期待できる」の部分、削除することについて

委員：

コロナ禍という特別な事情がなくても婚姻件数の増加は将来的に出生数の増加、そして子育て、定住につながるはずである。そこで、削除ではなく、「婚姻件数については、今後、将来的に増加すれば、出産、子育てにつながり、子育てから定住につながることを期待できる」としたらどうかと思う。

委員：

当該箇所を削除することに異論はない。削除することを公表する際、その理由、お詫びを記載する必要がある。

(4) その他（自由意見）

委員：

最近感じている点をいくつか提言する。

1点目として、政府の子育て支援対策が拡充されることもあって、各市町村でも子育て対策の一層の強化推進策が発表されている。しかし、同じ内容に偏りがちである。各行政機関が特色を活かした独自性も大事である。

先に東大和市駅前に遊戯施設「あそびっぐ」がオープンした。連日盛況のように感じている。当市内の幼い子はもちろん周辺近隣からの集客も期待される。

当市としても、ビッグボックス（西武鉄道）と提携して、例えば、幼児、保育、幼稚園児の健康・情操教育の一環として、希望者に割引入場券を配布するなどの子育て支援策は考えられるか。

2点目として、2月15日付け市報1面の多摩湖駅伝の特集記事は、読みやすく、分かりやすい内容で、応援、見学者を誘引する効果が期待できる紙面と感じた。

3点目として、東大和市駅前の噴水跡の広報看板、うまべえ〜の設置は、美観的にも駅前広場の魅力が向上し、駅前、駅利用者、そして、広く市民に当市のイメージアップが図られるものと期待する。

4点目として、先に制作した当市のブランド・イメージポスターを今後カレンダーに使用するか、絵はがきとして発行し、広く市民に活用してもらう方法など、検討する価値があるように思う。

委員：

誤りを発見した際、速やかに訂正することは適切な対応であると思う。

一案ではあるが、訂正・お詫びの文書の一つにまとめてはどうか。「資料4」の形式で、「1 該当箇所」に3点の訂正事項を記載し、市公式ホームページで公表、併せて、差替ページ欄外脚注等に訂正をした旨を記載する。

「資料4」のみお詫び文を掲載することに違和感を覚える。

委員：

私共のように住宅購入をきっかけに他市から当市に転入してきた世帯（特に30歳代や20歳代）も少なくないと思う。転入する前に分からなかった当市の魅力を転入してきたタイミングで存分に伝えていくことで、東大和市での新生活に勇気や希望が持てると思う。子育て、就労に関するサポート（市の負担がかからない範囲）での間口をもっともっと広げて、今以上に子育てしやすい東大和市になっていくことを願っている。

委員：

東大和市の知名度を上げる方策が必要である。先日、ユーチューブを視聴していた時、多摩湖をロードバイクで走る映像があったが、一度も「東大和市」との表記がなく、「東村山市」、「所沢市」との表記がされていた。これが1件であれば良いが、5～6件視聴したが、全て「東大和市」との表示がなかった。非常に残念に思った。東大和市にはアピールができる場所があるので、その資源をうまく活用、アピールを今以上行う方法が必要と思う。知名度を上げることで、関心を持ってもらい、居住地の一候補となってもらえればと考える。